

大通公園を望む窓辺から

私とゴルフ

常任理事 後藤 聰

40歳近くなって仲間に誘われてゴルフを始めた。順調にハンデは上がった。ただ、不幸なことに、ゴルフ技術の伸び盛りの時と、脳外科医としての仕事の忙しさがちょうど同時期にぶつかった。アマチュアの研修会等には、参加する時間が全く無かった。さらに、無理論派で、とにかくやみくもにでも、練習さえすれば、上手くなると信じていた。

その頃は、朝の5時からホームコースの練習場が開いていた。家からは10分かからないので、携帯電話も無い時代だったが、呼び出されるのを心配しながら、毎日通った。

上達するには、アイアンを地面から直接打つことが肝要だと誰かに言われ、マットをどけて、ベアグランドから打った。ただ、お陰で両手首の腱鞘炎になった。術者として手術をする時にも痛いので、サポーターを消毒して着用したものである。

脳外科部長、副院長になる頃が一番ドライバーは飛んだ。月例競技などで、クラブの選手の方と回っても何ら臆するところは無かった。あの頃もう少し本格的にしていれば、と今になって思う。片手シングルにはついにはなれなかった。それに、マッチプレーには極端に弱かった。クラチャンの本戦等で、都合10回くらいは戦ったが、実に一度も勝った記憶が無い。弱い性格が災いしているらしい。

院長に就任した頃から、球が飛ばなくなった。今まで、越えていたクロスバンカーを越さなくなった。パターとか寄せは元来下手で、年齢を重ねると今に上手くなると信じていたのだが、下手なままだった。

いつかは“回れるだけで幸せだ”という心境になるねと話していたのだが、あっという間にまさにその境地になってしまった。

今日も無事にラウンドできたと、感謝だけしながら回っている。

介護施設の人材育成について

理事 野呂 英行

医療と介護の連携をライフワークと決め幾十年、来春、念願の地域密着型介護老人福祉施設増床までこぎつけほっとしつつも、課題や夢は尽きず、相変わらず走り回る毎日です。

とりわけ大きな課題は、医業の世界でもそうですがひとの問題です。AIの採用で大手銀行が数万人のリストラを発表するなど、急速にひとによる仕事の枠が狭まると言われますが、部分的、効率的なロボットやAIの活用は必然とはいえ、根幹をなす部分は一人ひとりの技能と“心”で成り立つのが介護の仕事です。

現在微力ながら「英生塾」なる介護職員養成研修を定期的に開催し、定年退職者、主婦、転職希望者、学生等介護福祉に関心あるひとたち一期8～10人程度の少数精鋭をモットーに地域に貢献する介護福祉士の輩出を目指しています。

ただ、焼け石に水の思いも正直強く、国策を待つのみではなく何かやらなくてはと考えた結果、江別で地域発展と地元企業の活性化を目指し、農業従事国際研修生の受け入れを10年間実施し、年間180人もの研修生を受け入れているISS北海道事業協同組合との協同に取り組むことにしました。まずは、12月にISSの代表とベトナムへ行き、大学、日本語学校などで講演、説明会を開催し、研修生受け入れ実現に向けて相互理解を深め、課題の整理等を行うべく準備中です。簡単ではないのは承知ですが、実績ある先達者の協力と関係者の熱意があれば乗り越えられるものと信じています。

